

「授業構想力評価スタンダード（音楽科）」

観点 \ 段階	段階 1	段階 2	段階 3
A．授業構想力			
1．学習者の把握			
1) 学習者の実態把握	クラス全体の子どもの学習状況を把握し、学習課題を明確にすることができる。	子どもたち一人ひとりの学習状況を学習の記録に関わる客観的な情報に基づいて的確に把握し、学習課題を明確にすることができる。	子どもたちの学習生活環境や学力の習得状況に基づいて、子どもたち一人ひとりの学習状況を論理的に把握し、的確な学習課題を明確にすることができる。
2) 学習への構え・ルールづくり	子どもたちが既に習得している学習規律を理解し、これに基づいて指導を展開することができる。	子どもたちと教師によって展開されるコミュニケーションを実現させるために必要とされる学習規律を、子どもたちが納得できる方法で設定し、子どもたち一人ひとりの個性に基づいて活用することができる。	望ましい学習環境を維持していくために、子どもたちと相互にかかわり合いながら、協同的に学習規律を工夫し、子どもたちが主体的に学習規律を守り、修正していくことができるような学びの共同体を育てていくことができる。
2．目標の分類と設定	子どもたちの学習状況をふまえながら、音楽に対する関心・意欲・態度と音楽の構造の知覚、音楽の美しさの感受、演奏や聴取の技能という観点から、学習目標を設定することができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえながら教材を吟味し、音楽に対する関心・意欲・態度と音楽の構造の知覚、音楽の美しさの感受、演奏と聴取の技能という観点から目標を分類し、学習評価の規準と基準を設定することができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムをふまえると同時に、障害等を含む多様な子どもたちの学習状況や生活状況をふまえながら教材を吟味し、音楽に対する関心・意欲・態度と音楽の構造の知覚、音楽の美しさの感受、演奏と聴取の技能という観点から目標を分類し、学習評価の規準や基準を設定することができる。
3．授業構成			
1) 教育内容の構成	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえながら、子どもたちが教材を通して学ぶ内容を明確に把握することができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえながら、子どもたちが教材を通して学ぶ内容を学習の深まりと広がりという観点から位置づけることができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえると同時に、学校目標や学年目標をふまえながら、子どもたちが教材を通して学ぶ内容を学習の深まりと広がりという観点から構成することができる。
2) 教材（題材）の選択・構成	設定された目標と学習課題に基づいて、子どもたちの学習に適した教材を吟味し、選択・構成することができる。	設定された目標と学習課題に基づいて、子どもたちの学習に適した教材を吟味し、主教材と副教材という観点で教材を関係づけ、構成することができる。	設定された目標と学習課題に基づいて、子どもたちの学習に適した教材を吟味し、題材の中で子どもたちの探究活動が有効に展開されるように教材を編成することができる。

観点 / 段階	段階 1	段階 2	段階 3
3) 授業過程の組織	音楽のゲシュタルト性をふまえながら、学習活動が音楽の全体的な把握から、分析的な探究、全体像のとらえ直し、という流れで授業過程を組織化することができる。	音楽のゲシュタルト性をふまえると同時に、音楽の知覚と感受という観点から学習活動を組織化し、子どもたちの学習状況に適した指導行為を組織化することができる。	題材レベルで子どもたちの学習活動が連続的に発展するような学習過程の組織化と教材の構造的編成を授業過程に具体化することができる。
4) 学習法・学習形態の選択・組織	学習課題に適した遊び活動や探究活動を選択し、子どもたちの学習状況と教材の特性にふさわしい学習形態を組織化することができる。	子どもたちの課題意識が活性化されていくように遊び活動や探究活動を選択し、協同的な探究活動が展開されるような学習形態を適切に組み合わせることができる。	題材レベルで歌唱、器楽、創作、鑑賞等の多様な学習活動を組み込み、課題追求が活性化されるような個別学習やグループ学習、一斉学習を適切に組み合わせ、組織化することができる。
4. 単元計画 (授業計画)			
1) 単元 (授業) 計画の作成	前時の授業と次時の授業で扱われる学習課題の関連に基づいて、児童観や教材観、指導観を明確にし、授業計画を成文化することができる。	子どもたちの学習状況と教材の特性をふまえながら、課題意識の活性化を促す学習指導計画を成文化することができる。	子どもたちの学習状況と学習課題に基づいて題材設定の理由を明らかにし、ここで必要とされる学習活動や教材の意義を論理的に記述することができる。
2) 学習指導案の作成	実習指導教員の指導に基づいて学習目標を成文化し、具体的な学習指導過程と評価の手だてを的確に記述することができる。	自分で把握することができた子ども観と教材観、指導観に基づいて学習目標を成文化し、具体的な学習指導過程と評価の手だてを的確に記述することができる。	題材レベルでの目標に基づいて、個々の授業目標の達成を目指した子どもたちの学習活動と教師の支援を具体的に記述することができる。
3) 学習評価計画の作成	授業過程における個々の場面で、指導構想に関連した評価の観点を明確に記述することができる。	観察法、実技試験法、質問紙法等の手だてを活用しながら、学習指導場面に適した評価の内容と方法を記述することができる。	子どもたち自身の学習の振り返りと教師の指導行為の反省的な考察のために活用できる評価シートや録音・録画等の情報提供を活用し、子どもたちの学習活動を活性化させると同時に、査定のための資料を蓄積することができる。